

# 平成 27 年度沖繩振興公共投資交付金

## 事業 評 価 結 果

平成 28 年 8 月

沖 縄 県

## 沖縄振興公共投資交付金の評価制度について

沖縄振興公共投資交付金は、沖縄県が沖縄の振興に資する事業を自主的に選択して作成した沖縄振興交付金事業計画に基づく事業のうち、沖縄の振興の基盤となる施設の整備に関する事業等の実施に要する費用に対し、国が交付金を交付することにより、沖縄の実情に即した事業の的確かつ効果的な実施を図ることを目的としている。

沖縄県は、投資交付金の目的に鑑み、その執行に際し成果目標及びその達成予定年度（長期にわたる事業等では、当該成果目標の達成状況についておおむね3年程度の適当な期間ごとに定める中間評価年度）を設定し、設定した成果目標の達成予定年度（中間評価年度）以後、速やかに当該成果目標の達成状況について評価を行うこととなっている。

沖縄県は、成果目標及びその達成予定年度の設定並びに成果目標の達成状況についての評価を行った場合には、これを公表するとともに、内閣総理大臣に提出することとなっている。

（沖縄振興公共投資交付金制度要綱）

## 事業評価の方法

沖縄振興公共投資交付金においては、事業計画に記載された全ての事業に係る成果目標を設定することとなっており、その括り方も数も沖縄県の任意となっている。沖縄県では、各施策の着実な推進を図るため、分野内の施策単位で成果目標を設定し評価を行っている。

今回の評価対象は、平成27年度末時点の成果目標において、平成27年度を達成予定年度と設定した27件及び中間評価年度と設定した5件である。

記号	担当省庁	部局名	分野	H24		H25		H26		H27		H28		H29以降		
				中間評価	最終評価	中間評価	最終評価									
A	警察庁	警察本部	交通安全施設	1		1		1		1		1				
C	文部科学省	教育庁	学校	1	18	2	19	1	18		19		14		3	
D	厚生労働省	企業局	水道施設				1	1						2	2	
		子ども生活福祉部	社会福祉施設				1	1				1				
		保健医療部	医療施設		2		1	1		2		1			2	
E	農林水産省	農林水産部	畜産				1								1	
			農業農村						5			5			4	
			森林		1		1		1		1			1	2	
G	国土交通省	土木建築部	漁港					1						3	6	
			道路				3	1				13			2	
			港湾	1	1			4	4			1	6		2	
			治水					2							1	2
			海岸						1							1
			下水	4			2		4						1	1
			都市公園	5	2	1	10	7	11		3	3	7		4	12
H	環境省	環境部	自然環境					1		1		1		1		
合計				12	24	3	40	14	47	5	27	5	49	13	42	

評価の方法は、成果目標毎に設定した定量的な目標値に対する実績値を達成率（％）に換算した上で評価している。

また、目標達成率を踏まえ、さらなる効率化等に向けた検証を行っている。

＜評価基準＞

算出された達成率については、目標毎に以下の評価基準に区分する。

- 「達成」 : 達成率が 100%
- 「概ね達成」 : 達成率が 70%以上 100%未満
- 「一部達成」 : 達成率が 70%未満かつ、一部の目標値を達成している場合
- 「未達成」 : 達成率が 70%未満かつ、すべての目標値を達成していない場合
- 「繰越」 : 成果目標を構成する全ての事業が未着手として「繰越」している場合

＜事業評価例＞

（事業評価例：「未達成」）

成果指標である「県立学校の屋外教育環境の整備に関する事業（運動場）校数」の達成率が 70%未満かつ、（すべての）目標値を達成していないため、達成状況は「未達成」としている。

平成27年度沖縄振興公共投資交付金 成果目標達成状況(達成予定年度分)

(凡例)  
 達成・・・◎ 概ね達成・・・○ 一部達成・・・△  
 未達成・・・未 繰越・・・繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値(基準値)	達成値(実績値)	達成状況
C-14	【目標】 子ども達の最も身近にある学校の屋外環境を様々な体験活動の場として活用し、たくましく心豊かな子ども達を育成するため、屋外環境の一体的な整備充実を図る。 【定量的指標】 県立学校の屋外教育環境の整備に関する事業（運動場）（3校）	H27	-	県立学校の屋外教育環境の整備に関する事業（運動場）校数	校数	3	2	未

（事業評価例：「繰越」）

成果目標を構成する 1 事業が繰越をしているため、達成状況は「繰越」としている。

平成27年度沖縄振興公共投資交付金 成果目標達成状況(達成予定年度分)

(凡例)  
 達成・・・◎ 概ね達成・・・○ 一部達成・・・△  
 未達成・・・未 繰越・・・繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値(基準値)	達成値(実績値)	達成状況
C-20	【目標】 特別支援学校の校舎等の整備について、魅力ある学校づくりを推進し、安全で快適な学習環境の充実した学校施設を年次的に整備する。 【定量的指標】 特別支援学校の建物の新増築（1校）	H27	-	特別支援学校の建物の新増築校数	校数	1	-	繰

## 評価結果について

### ○ 最終評価の達成状況

最終評価の達成状況は、27件の成果目標のうち「達成」及び「概ね達成」が24件（89%）、「未達成」が2件（7%）、「繰越」が1件（4%）となっている。

約9割の成果目標について、「達成」または「概ね達成」したことにより、沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げる各施策の推進、社会基盤の整備に寄与することができた。

一方で、平成26年度評価結果と比較し、「未達成」が同じく2件となっており、要因としては、関係機関との調整等による事業進捗に遅れが生じたことが挙げられる。

沖縄県としては、本評価結果を踏まえ、より綿密な計画のもと事前に各関係者間との調整を行い、事業が円滑に進められるよう推進していく。

また、未着手となった「繰越」についても、引き続き縮減に努めていく。

なお、「繰越」となっている成果目標については、次年度に評価するものとする。

評価対象 目標数	評価			繰越
	達成 概ね達成	一部達成	未達成	
27	24 〔達成 21 概ね達成 3〕	0	2	1
	89%	0%	7%	4%

### 【平成26年度評価結果】

評価対象 目標数	評価			繰越
	達成 概ね達成	一部達成	未達成	
47	41 〔達成 34 概ね達成 7〕	2	2	2
	88%	4%	4%	4%

○ 中間評価の達成状況

中間評価は事業途中の評価であるが、今回の評価では、5件の成果目標のうち「達成」が5件（100%）となっている。

全ての成果目標について、「達成」したことにより、沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げる各施策の推進、社会基盤の整備に寄与することができた。

平成26年度評価結果と比較すると、「未達成」が3から0件に減少している。これは事業計画の簡易な変更（事後の届出）により機動的に対応し、市町村と県間で流用を行うことで予算執行の効率化が図られたことによるものと考えられる。

最終評価年度における成果目標の達成に向け、引き続き事業の見直しを行うなど効果的、効率的に事業を実施していく予定である。

評価対象 目標数	評価			繰越
	達成 概ね達成	一部達成	未達成	
5	5 〔達成 5 概ね達成 0〕	0	0	0
	100%	0%	0%	0%

【平成26年度評価結果】

評価対象 目標数	評価			繰越
	達成 概ね達成	一部達成	未達成	
14	11 〔達成 10 概ね達成 1〕	0	3	0
	79%	0%	21%	0%

○ 「繰越」の達成状況

平成 26 年度事業評価で「繰越」となった 2 件の成果目標のうち、「達成」が 1 件 (50%)、未達成が 1 件 (50%) となった。

評価対象 目標数	評価			繰越
	達成 概ね達成	一部達成	未達成	
2	1 〔 達成 1 概ね達成 0 〕	0	1	0
	50%	0%	50%	0%

【平成 26 年度評価結果】

評価対象 目標数	評価			繰越
	達成 概ね達成	一部達成	未達成	
3	2 〔 達成 2 概ね達成 0 〕	0	1	0
	67%	0%	33%	0%

## 沖縄振興公共投資交付金活用の検証

### （成果目標の達成状況について）

評価対象の成果目標のうち約9割が「達成」「概ね達成」と評価されたことにより、沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げる各施策を着実に推進することができた。

沖縄県としては、本評価の結果を踏まえ、必要に応じ事業の見直しや改善を図りながら、より効果的・効率的に事業を実施し、更なる成果目標の達成率の向上に努める。

### （評価の見直しについて）

沖縄振興公共投資交付金の事業評価について、①国の公共事業等の例等を参考に、細分化された事業評価の導入、②成果目標における定量的な評価の導入の検討が必要とされている。

このため、平成27年度の事業評価において、県の要綱等に基づいてすでに実施している公共事業（当該交付金の該当部分）の事業採択前の事前評価（費用便益分析※を用いて実施）を、当該交付金の事業評価への関連付けを行うとともに、平成28年度の成果目標において、定量的な成果目標（アウトカム）の導入も一部実施した。

また、更なるアウトカム指標の設定も見据えて、学校施設整備事業と国定公園施設整備事業において、試行的に施設利用者を対象としたアンケート調査（満足度調査）を実施した。

※ 費用便益分析（Cost Benefit Analysis）とは

☞ 政策や事業の実施による社会的な便益と費用を計測し、施策の効率性、事業推進の妥当性を評価する分析手法

### （沖縄振興公共投資交付金の効果的な活用について）

沖縄振興公共投資交付金は、従来の補助金等に比べ流用手続きが簡素・簡略化されていることから、年度途中の環境の変化や事業の執行状況に応じ、機動的な事業執行が可能となっている。

平成27年度の交付金の効果的な活用例としては、未舗装の農道からの粉塵等により農作物への影響があり、地元農家から農道舗装の強い要望があったため、八重瀬町第1地区（八重瀬町）にて、事業計画の簡易な変更（事後の届け出）により機動的に対応したことで、予定より1年前倒しで舗装を実施することができた。（農業農村）

首里高校の危険改築事業において、改築予定箇所から遺構が発見され、遺構保護のための埋め戻し等設計変更に不測の日数を要するため、事業を中止とし、他県立学校の改築事業等を前倒しする必要性が生じたことから、事業計画の簡易な変更（事後の届出）により機動的に対応した。（学校施設）

このような機動的な事業執行例は、他分野でもみられる。

**(沖縄振興公共投資交付金の予算配分について)**

沖縄振興公共投資交付金の予算配分については、県の重点施策を勘案しながら、自主的に選択した事業に対して配分しており、平成 27 年度は沖縄都市モノレールの延長事業が本格化したことから当該事業に優先的に事業費を配分し、その他の事業についても円滑な実施ができるよう予算配分することができた。

また、各分野への予算配分の妥当性を検証し、沖縄県による次年度以降の事業計画等への反映を検討することが求められていることを踏まえ、平成 28 年度の事業計画の作成にあたり、平成 26 年度の各事業分野の執行状況を勘案し、執行率が高い分野については配分のシェアを引き上げる等、これまで以上に重点化・効率化が図られた。

## 分野別の評価結果

○平成 27 年度を達成予定年度とする分野毎の評価結果

分野	評価対象 目標数	評 価				繰越
		達成	概ね達成	一部達成	未達成	
交通安全施設	1	1				
学校施設	19	13	3		2	1
医療施設	2	2				
森林	1	1				
漁港						
都市公園	3	3				
自然環境	1	1				
合 計	27	21	3		2	1

○平成 27 年度を中間評価年度とする分野毎の評価結果

分野	評価対象 目標数	評 価				繰越
		達成	概ね達成	一部達成	未達成	
農業農村	5	5				
合 計	5	5				

○平成 26 年度事業評価結果で「繰越」となった分野毎の評価結果

分野	評価対象 目標数	評 価				繰越
		達成	概ね達成	一部達成	未達成	
学校施設	1				1	
都市公園	1	1				
合 計	2	1			1	

## A 交通安全施設（警察本部）

### 【沖縄21世紀ビジョン基本計画】

#### 2－（4）－ア

安全・安心に暮らせる地域づくり

### 【事業目的・概要】

交通量が多い等、交通環境の改善を行う必要性が高いと認められる地区において、交通事故を防止するため、道路交通法に基づく交通安全施設の設置・管理を通じて交通の安全と円滑を図る。

### 【整備箇所】

- ・ 信号柱の建替・移設 70 本
- ・ 横断歩道の補修 5 km・実線の補修 5 km
- ・ 信号機改良（LED化）：車両用灯器 50 式、歩行者用灯器 50 式

### 【成果の検証】

信号柱の建替・移設 70 本、横断歩道の補修 5 km、実線の補修 5 km、信号機改良（LED化）（車両用灯器 50 式、歩行者用灯器 50 式）を整備した。

信号灯器の視認性の向上及び横断歩道等の補修により、日常生活における安心安全な交通環境が整えられた。

## C 学校施設（教育庁）

### 【沖縄21世紀ビジョン基本計画】

#### 5－（3）－ウ

時代に対応する魅力ある学校づくりの推進

### 【事業目的・概要】

- ・ 本県は、復帰後集中的に学校施設を整備したことにより耐震基準を満たしていない教育施設が多く、加えて、復帰当時の建築資材不足に伴い施設整備に塩分含有量の高い海砂が使用された経緯や、沖縄特有の潮風による塩害や紫外線照射等により、経年劣化の進行が著しいことから、早急に改築・改修等を推進する。（構造上危険な状態にある建物の改築、不適格改築等）
- ・ 学校給食の普及充実及び安全な学校給食の実施を図るため、公立の義務教育諸学校等における学校給食施設を整備する。（学校給食施設の新増築等）
- ・ 学校教育活動の円滑な実施及びスポーツの振興に寄与するため、屋内又は屋外の学校水泳プール等を整備する。（学校水泳プールの整備に関する事業）等。

## 【整備箇所】

- ・ 各県立学校（美里工業高校、宮古工業高校、沖縄水産高校等）
- ・ 各市町村立学校・幼稚園（伊江小学校、粟国中学校、開南幼稚園、嘉手納幼稚園、伊江幼稚園等）
- ・ 給食施設（粟国単独調理場等）
- ・ 水泳プール（中の町小学校、高江洲小学校等）等

## 【成果の検証】

### （平成 27 年度）

学校施設整備については、評価対象成果目標数は 19 であり、「達成」「概ね達成」が 16（84%）となっており、概ね順調に進捗しており、学校教育の円滑な実施に資することができた。

具体的には、構造上危険な状態にある建物の改築、不適格改築等により延べ 1 万 3 千名の県内小・中学校、高等学校及び幼稚園に在籍する児童及び生徒等の安全が保たれた。

その他、冷房設備の設置、学校給食施設の新増築、学校水泳プールの整備、延べ 2 万 5 千名の県内小・中学校、高等学校及び幼稚園に在籍する児童及び生徒の教育環境の改善が図られた。（参考：県内小・中学校、高等学校及び幼稚園に在籍する児童及び生徒等数 約 20 万名）

その一方で、「未達成」が 2 件、「繰越」が 1 件となっており、要因としては学校関係者等との調整等に時間を要していることが挙げられ、今後は学校関係者の意見集約を速やかに行い、調整を線密に行い、円滑な進捗が図られるよう改善を図っていく。

### （平成 26 年度繰越）

特別支援学校（島尻特別支援学校）の校舎等の整備については、学校側との調整に時間を要したため平成 27 年度へ繰越した。

平成 27 年度においては、設計及び施工業務を行う予定であったが、設計業務に係る指名競争入札が 2 度も不落となり、適正な工期が確保することが困難となり事業中止となった。平成 28 年度に改めて実施を予定している。

今後は、学校側の意見集約や関係者との調整をできるだけ前倒し、また入札については、一般競争入札の積極的な実施や小規模工事の一括発注等を実施していく。

### （満足度調査）

施設利用者を対象にしたアンケート調査（満足度調査）の結果は以下のとおりとなった。

#### <アンケート対象>

##### ○県立高校及び市町村立小中学校

- ・ 教員：74 名（回答数 51 名、回答率 69%）
- ・ 児童及び生徒：434 名（回答数 415 名、96%）

＜学校施設の改築に伴う満足度について＞

校舎等の改築について、「とても満足」、「満足」と答えた者の割合は、約9割となっており、高い満足度を示した。

校舎の改築の前と後の児童及び生徒の学習意欲等の変化について、教員に尋ねたところ、「とても変化があった」、「一部に変化があった」と答えた者の割合が約9割と高く、学校の改築が児童及び生徒の学習意欲等の変化にもつながっていると考えられる。

また、児童及び生徒に対しても、校舎等の改築の前後の気持ちの変化の有無について尋ねたところ（複数回答可）、「学校（クラス）の雰囲気明るくなった」と答えた者の割合は児童及び生徒の約7割となっており、校舎等の改築が児童及び生徒にある程度良い影響を与えたと考える。

更に「もっと学校へ行きたくなった」、「もっと勉強したいと思うようになった」と答えた者の割合もそれぞれ約3割、約2割となっており、児童及び生徒においても自ら学習意欲等の変化をある程度実感していると考えられる。

今回のアンケート結果を踏まえ、評価項目としての妥当性、学校側の協力（負担と感ぜない実施時期や対象学校数）の有無等を検証し、今後、定量的な成果目標の1項目とするべきか検討していきたい。

### 【予算執行の効率化等】

首里高校の危険改築事業において、改築予定箇所から遺構が発見され、遺構保護のための埋め戻し等設計変更により不測の日数を要するため、事業を中止とし、他県立学校の改築事業等を前倒しする必要性が生じたことから、事業計画の簡易な変更（事後の届出）により機動的に対応した。

その他、事業の熟度を考慮し、危険改築事業（南部工業等）を中止し、他事業（沖縄水産高校等）を前倒しする必要性が生じたことから、事業計画の簡易な変更（事後の届出）により機動的な対応をした。

## D 3 医療施設（保健医療部）

### 【沖縄21世紀ビジョン実施計画】

2－（3）－ウ

県民ニーズに即した保健医療サービスの推進

2－（4）－イ

災害に強い県土づくりと防災体制の強化

### 【事業目的・概要】

老朽化等に伴い移転新築する医療機関等を整備し、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図るとともに、医療施設における患者の療養環境及び医療従事者の職場環境の改善並びに医療従事者の養成力の充実化を図る。

また、医療施設の耐震化又は補強等を行うことにより、地震発生時において適切な医療提供体制の維持を図る。

## 【整備箇所】

(平成 27 年度)

- ・ 沖縄中央病院（沖縄市）
- ・ 中頭病院（沖縄市）

## 【成果の検証】

(平成 27 年度)

沖縄中央病院については、昭和 50 年に建てられた一部施設の老朽化が進み、耐震性能を示す  $I_s$  値が 0.3%未満で、大規模な地震により倒壊の危険性が高い状態であったが、耐震化を図ったことにより、 $I_s$  値を基準値(0.525)以上にまで回復させることができ、24 病床分の療養環境の安心安全が保たれた。

また、震災後も安定した医療提供体制が確保されるとともに、地域住民が震災時も安定して医療を利用できる体制の整備ができた。

中頭病院の新築移転に伴う施設整備により、医療基盤の充実、緊急医療体制の強化、臨床研修医の研修環境の充実及び生活環境の充実が図られた。

## E 1 農業農村（農林水産部）

### 【沖縄 21 世紀ビジョン実施計画】

3-(7)-カ

亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備

3-(11)-イ

生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上

1-(6)-ア

沖縄らしい風景づくり

1-(1)-ア

生物多様性の保全

### 【事業目的・概要】

農業生産額・農家所得の向上、多面的機能を活かした地域の活性化や定住の促進、環境に優しい循環型・省エネ型の農村地域を構築することを目標とする。

### 【整備箇所】

豊波地区（竹富町）、具志堅地区（南大東村）、松田東地区（宜野座村）等

### 【事前評価】

沖縄振興公共投資交付金については、事前評価の実施が必要とされていないが、県としては、いわゆるインフラ整備（公共事業）に関して、事業の効率性やその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、費用便益分析を用いて事前評価を行い、公表すること

が必要だと考えており、県の実施要領等に基づき、事前評価を実施している。

事業を実施する効果をお金に換算し、建設コストや維持管理費等に対して事業の効果がどれくらいか、また自然環境への配慮、第三者意見の聴取等を確認し、実行性を検証するなど、総合的に事業の必要性や効果を評価しており、その結果、十分に事業効果が期待できるとの評価となっている。

更に今後、事業が終了後、一定期間（5年程度）を経過した事業について、コストパフォーマンスを再度検証していくこととしている。

事前評価の結果等については、以下の URL にて参照。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/norinkikaku/koji/koukyoujigyoujizennhyouka25.html>

## 【成果の検証】

- ・ 区画整理、畑地かんがい施設の整備等を行うことにより、営農の機械化や高収益作物への転換の促進が図られた。具体的に、南帆安地区（与那国町）では、不整形であった区画を整形化し、農道及び排水路などを整備したことで、営農の機械化が図られ、農業生産性の向上に寄与した。
- ・ かんがい用ため池等においては、ため池改修及び土砂崩壊防止対策を実施することで、農業用施設への自然災害の未然防止及び農用地の保全が図られた。また、農用地について、防風施設等を整備することで農用地の保全が図られ、農業水利施設と農地の整備により農業生産性の向上等が図られた。具体的に、旧幕下第5地区（南大東村）では、排水路の整備、ほ場勾配の修正及び防風林の整備を実施したことで、農用地の保全が図られ、農業生産性の向上に寄与した。
- ・ 汚水処理施設を整備したことで、し尿、生活雑排水等を処理することによる水質保全が図られた。また、汚水を処理した際に発生する汚泥を堆肥化し、農地等へ使用することによる資源循環も図られた。具体的に、大城地区（南城市）では、し尿や生活雑排水等を処理するための汚水処理施設を整備したことで、農業用排水の水質保全及び農村生活環境の改善が図られ、地域の活性化と定住促進に寄与した。
- ・ 農道、農業用排水路、集落道、集落排水路、自然環境・生態系保全等の整備を行ったことにより、農業生産基盤と農村生活環境の改善・向上が図られた。具体的に、今帰仁村西部地区（今帰仁村）では、農道・集落道などの道路整備と生活環境整備を実施したことで、農作物への粉塵被害の軽減、農作物の品質の向上及び高収益作物の導入が図られ、農業生産性の向上に寄与した。
- ・ 土壌流出防止対策及び発生源対策の整備を実施したことで、農地及びその周辺の土壌流出が防止され、周辺公共水域の保全が図られた。具体的に、真栄原地区（糸満市）では、勾配修正及び排水路の整備などを実施したことで、農用地からの土壌流出防止及び下流域の保全が図られ、赤土流出による農業と環境への被害軽減に寄与した。

### 【予算執行の効率化等】

未舗装の農道からの粉塵等により農作物への影響があり、地元農家から農道舗装の強い要望があったため、八重瀬町第1地区（八重瀬町）にて、事業計画の簡易な変更（事後の届け出）により機動的に対応したことで、予定より1年前倒しで舗装を実施することができた。

## E 1 森林（農林水産部）

### 【沖縄21世紀ビジョン実施計画】

3-(7)-カ

亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備

### 【事業目的・概要】

耕作放棄地等を解消するとともに、適切な森林整備事業を実施し、森林の持つ多面的機能の発揮を図る。

### 【整備箇所】

伊江村全域、宮古島市全域

### 【成果の検証】

森林と人とのふれあい空間を整備するため、伊江村全域において植栽2.8ヘクタール、保育7.0ヘクタールを実施した。また、森林状態ではない箇所の林地を推進するため、宮古島市全域において植栽1.4ヘクタール、保育69.0ヘクタールを実施した。

植栽や保育といった適切な森林整備を実施したことにより、二酸化炭素吸収機能のほか、水源涵養機能や土砂流出防止機能などの森林の持つ多面的機能の発揮が期待される。

## G 都市公園（土木建築部）

### 【沖縄21世紀ビジョン基本計画】

1-(7)-ア

まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進

### 【事業目的・概要】

誰もが安全・安心に利用できる公園環境を目的に施設のバリアフリー化や長寿命化計画に基づく老朽化施設の改築・更新を行う。

### 【整備箇所】

名護市において、屋部親水公園（外4公園）を整備し、その他15公園の遊戯施設等の改築・更新を行った。

石垣市において、市中央運動公園、新栄公園の施設（便所）のバリアフリー化に向けた改築・更新を行った。

読谷村において、残波岬公園の園路のバリアフリー化を行い、またユニバーサルデザインを取り入れた遊具を整備した。

## 【成果の検証】

### （平成 27 年度）

- ・ 名護市においては、成果目標であった「一人当たり公園面積」（19.58 m<sup>2</sup>/人）を達成したことにより、公園施設の充実が図られ、地域の交流の場・利用者の体力向上の場・休養の場を創出することができた。
- ・ 石垣市においては、成果目標であった「バリアフリー便所適合率」（80%）を達成したことにより、身障者を含め子供から高齢者まで誰もが安全・安心して利用できる公園環境になり、公園利用者の安全性や利便性の向上を図ることができた。  
また、公園施設の利便性が向上したことにより、年間利用者数が約 2,300 人増加した。
- ・ 読谷村においては、ユニバーサルデザインを取り入れた遊具を整備したことにより、身障者も一緒に遊べる空間や、児童・乳幼児の遊びの動線が交わらない空間確保ができた。

### （平成 26 年度繰越）

読谷村においては、残波岬公園内の園路のバリアフリー化整備にて、工事時期及び工事範囲等に係る地元との調整に時間を要したため平成 27 年度へ繰越した。

平成 27 年度に整備が完了し、バリアフリー化の割合が成果目標に達したことにより、身障者をはじめ誰もが安全で安心できる公園環境となり、公園の利用者の円滑な移動経路、利便性、安全性が確保された。

## 【予算執行の効率化等】

ユニバーサルデザインを取り入れた遊具整備について、予定より経費が見込まれたため、事業計画の簡易な変更（事後の届出）により機動的に対応し、他市町村（南風原町）の予算を流用することによって、予算執行の効率化が図られ、年度内に完了することができ、公園の利便性を向上することができた。

## H 2 自然環境（環境部）

### 【沖縄 21 世紀ビジョン基本計画】

#### 1 - (1) -イ

#### 陸域・水辺環境の保全

## 【事業目的・概要】

沖縄海岸国定公園・沖縄戦跡国定公園内に新たな施設整備又は既存施設の改修を行うことにより、利用者の利便性や快適性の向上及び自然環境の保全、多様な自然とのふれあい活動の場所を維持し、更なる地域の活性化に寄与する。

## 【整備箇所】

本部ふるさと歩道整備工事（若地原～大堂）

## 【成果の検証】

沖縄海岸国定公園本部ふるさと歩道整備（若地原～大堂）において、斜面からの排水処理を行う側溝の設置など、歩道整備（L=140m）の整備を完了した。歩道が整備されたことにより、多くの県民が安全に、本部カルスト地形の優れた自然景観を楽しむことができるようになった。

### （満足度調査）

施設利用者を対象としたアンケート調査（満足度調査）の結果は以下のとおり。

#### <アンケートの対象>

○対象：国定公園を訪れた利用者（1,399人）  
（回答人数 582人、回答率 42%）

#### <公園施設の整備に伴う満足度について>

公園利用者に公園を訪れた回数を尋ねたところ、「初めて利用した」と回答した方の割合は6割、「複数回利用している」と回答した方の割合は4割となった。

公園を複数回利用している方を対象として整備に伴う満足度について尋ねたところ、「満足した」「どちらかという満足」と回答した方の割合は9割となった。

このような結果から、公園整備による高い満足度が示された。

今回のアンケート結果を踏まえ、評価項目としての妥当性、公園利用者の協力（アンケートが妥当な時期や対象公園）を検証し、今後、定量的な成果目標の1項目とすべきか検討していきたい。

## 【予算執行の効率化等】

現場内から発生する雨水排水処理について、当初計画にはない流末処理工事を行う必要が生じたため、事業計画の簡易な変更（事後の届出）により機動的に対応し、他事業から予算を流用することにより、円滑な整備が可能となった。

平成27年度沖繩振興公共投資交付金 成果目標達成状況(達成予定年度分)

(凡例)  
 達成...◎ 概ね達成...○ 一部達成...△  
 未達成...未 繰越...繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値	達成値 (実績値)	達成状況
	(目標を記載。定量的指標を設定の場合も本欄に記載)	(具体的な年度を記載)	(具体的な年度を記載)					
A-1	<p><b>【目標】</b>                      円滑化対策エリア内の特定道路において、信号機柱及び信号灯器の改良、適正な位置への移設、標識・標示の整備を行い、交通の安全と円滑化を図る。</p> <p><b>【指標】</b>                      整備が必要な円滑化対策エリア内の信号機柱及び信号灯器の改良・移設、標識・標示の整備率(整備率=整備済箇所/要整備箇所×100)                      ※箇所を事業予算額に置き換えて設定し、算出</p> <p><b>【目標値】</b>                      現況値 0% 最終目標値 100%</p>	H27	—	整備が必要な円滑化対策エリア内の信号機柱及び信号灯器の改良・移設、標識・標示の整備率	%	100	100	◎
C-1	<p><b>【目標】</b>                      構造上危険な状態にある公立幼稚園、義務教育諸学校、特別支援学校及び高等学校の校舎を改築し、児童生徒等の安全を守り、安心で豊かな教育環境を整備する。</p> <p><b>【定量的指標】</b>                      市町村立学校の構造上危険な状態にある建物の改築(27校(13園))</p>	H27	—	市町村立学校の構造上危険な状態にある建物の改築校(園)数	校(園)	27	26	○
C-2	<p><b>【目標】</b>                      教育を行うのに著しく不適当な建物で特別な事情のあるものについて、公立幼稚園及び義務教育諸学校の校舎を改築し、教育機能の向上及び校地の有効利用等の観点から教育条件の改善を図る。</p> <p><b>【定量的指標】</b>                      市町村立学校の不適格改築(7校(4園))</p>	H27	—	市町村立学校の不適格改築校(園)数	校(園)	7	7	◎
C-3	<p><b>【目標】</b>                      経年により、通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改築等を行うことにより教育環境の改善を図り、もって学校教育の円滑な実施に資するとともに、併せて建物の耐久性の確保を図る。</p> <p><b>【定量的指標】</b>                      市町村立学校の大規模改築(老朽)(1校(0園))</p>	H27	—	市町村立学校の大規模改築(老朽)校(園)数	校(園)	1	1	◎
C-4	<p><b>【目標】</b>                      経年により、通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改築等を行うことにより教育環境の改善を図り、もって学校教育の円滑な実施に資するとともに、併せて建物の耐久性の確保を図る。</p> <p><b>【定量的指標】</b>                      市町村立学校の大規模改築事業(質的整備)(3施設)</p>	H27	—	市町村立学校の大規模改築事業(質的整備)施設数	施設	3	3	◎
C-5	<p><b>【目標】</b>                      子ども達の最も身近にある学校の屋外環境を様々な体験活動の場として活用し、たくましく心豊かな子ども達を育成するため、屋外環境の一体的な整備充実を図る。</p> <p><b>【定量的指標】</b>                      市町村立学校の屋外教育環境の整備に関する事業(運動場)(2校)</p>	H27	—	市町村立学校の屋外教育環境の整備に関する事業(運動場)校数	校	2	2	◎

平成27年度沖縄振興公共投資交付金 成果目標達成状況(達成予定年度分)

(凡例)  
 達成...◎ 概ね達成...○ 一部達成...△  
 未達成...未 繰越...繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値	達成値 (実績値)	達成状況
C-6	<p>【目標】 公立幼稚園における教室の不足を解消するための園舎の新築又は増築により教育の円滑な実施を確保する。</p> <p>【定量的指標】 幼稚園の園舎の新増築（14園）</p>	H27	—	幼稚園の園舎の新増築園数	園	14	13	○
C-7	<p>【目標】 学校給食の普及充実及び安全な学校給食の実施を図るため、公立の義務教育諸学校及び沖縄県の夜間定時制高等学校における学校給食施設を整備する。</p> <p>【定量的指標】 学校給食施設の新増築（2箇所）</p>	H27	—	学校給食施設の新増築箇所数	箇所	2	2	◎
C-8	<p>【目標】 学校給食の普及充実及び安全な学校給食の実施を図るため、公立の義務教育諸学校及び沖縄県の夜間定時制高等学校における学校給食施設を整備する。</p> <p>【定量的指標】 学校給食施設の改築（4箇所）</p>	H27	—	学校給食施設の改築箇所数	箇所	4	3	○
C-9	<p>【目標】 学校教育上支障の無い範囲で、一般に開放できるよう配慮された義務教育諸学校の水泳プール及び利用期間の延長等を図るための屋外水泳プールを整備する。</p> <p>【定量的指標】 市町村立学校の学校水泳プールの整備に関する事業（5校）</p>	H27	—	市町村立学校の学校水泳プールの整備に関する事業校数	校数	5	5	◎
C-10	<p>【目標】 経年により、通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改築等を行うことにより教育環境の改善を図り、もって学校教育の円滑な実施に資するとともに、併せて建物の耐久性の確保を図る。</p> <p>【定量的指標】 市町村立学校の防災機能の強化に関する事業（3校（0園））</p>	H27	—	市町村立学校の防災機能の強化に関する事業校（園）数	校（園）	3	3	◎
C-11	<p>【目標】 構造上危険な状態にある県立学校の校舎を改築し児童生徒等の安全を守り、安心で豊かな教育環境を整備する</p> <p>【定量的指標】 県立学校の構造上危険な状態にある建物の改築（7校）</p>	H27	H26	県立学校の構造上危険な状態にある建物の改築校数	校数	7	7	◎
C-13	<p>【目標】 経年による学校建物の損耗等に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改築等を行うことにより教育環境の改善を図り、もって学校教育の円滑な実施及び建物の耐久性確保を図る。</p> <p>【定量的指標】 県立学校の大規模改造事業（質的整備）（3校）</p>	H27	—	県立学校の大規模改造事業（質的整備）校数	校数	3	3	◎
C-14	<p>【目標】 子ども達の最も身近にある学校の屋外環境を様々な体験活動の場として活用し、たくましく心豊かな子ども達を育成するため、屋外環境の一体的な整備充実を図る。</p> <p>【定量的指標】 県立学校の屋外教育環境の整備に関する事業（運動場）（3校）</p>	H27	—	県立学校の屋外教育環境の整備に関する事業（運動場）校数	校数	3	2	未

平成27年度沖繩振興公共投資交付金 成果目標達成状況(達成予定年度分)

(凡例)  
 達成...◎ 概ね達成...○ 一部達成...△  
 未達成...未 繰越...繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値	達成値 (実績値)	達成状況
C-15	<p>【目標】 県立学校における教室の不足を解消するための校舎の新築又は増築により教育の円滑な実施を確保する。</p> <p>【定量的指標】 県立学校の校舎の新増築(1校)</p>	H27	—	県立学校の校舎の新増築校数	校数	1	1	◎
C-16	<p>【目標】 産業教育のための施設等を整備することにより、産業教育を通じて、勤労に対する正しい信念を確立し、産業技術を習得させるとともに工夫創造の能力を養い、もって経済自立に貢献する有為な国民の育成を図る。</p> <p>【定量的指標】 県立学校の産業教育施設整備事業(一般施設整備2校)</p>	H27	—	県立学校の産業教育施設整備事業校数	校数	2	-	未
C-17	<p>【目標】 学校施設について、発災時における児童生徒のための応急避難場所としての必要な機能が発揮できるよう、防災機能の強化を図る。</p> <p>【定量的指標】 県立学校の防災機能の強化に関する事業(非構造部材 14校)</p>	H27	—	県立学校の防災機能の強化に関する事業校数	校数	14	14	◎
C-18	<p>【目標】 専門教育のための施設等を整備することにより、産業教育を通じて、勤労に対する正しい信念を確立し、産業技術を習得させるとともに工夫創造の能力を養い、もって経済自立に貢献する有為な国民を育成するため、産業教育の振興を図る。</p> <p>【定量的指標】 ・実験実習の発展的展開に繋がる新規整備(2箇所、4装置) ・装置の老朽化に伴う更新(11箇所、17装置)</p>	H27	—	・実験実習の発展的展開に繋がる新規整備	装置	4	4	◎
				・装置の老朽化に伴う更新	装置	17	17	
C-19	<p>【目標】 へき地における義務教育の円滑な実施及び教育水準の向上を図るため、へき地教員住宅、へき地集会室及びへき地寄宿舎の整備を行う。</p> <p>【定量的指標】 ・へき地教員住宅等の整備に関する事業(1校)</p>	H27	—	へき地教員住宅等の整備に関する事業校数	校数	1	1	◎
C-20	<p>【目標】 特別支援学校の校舎等の整備について、魅力ある学校づくりを推進し、安全で快適な学習環境の充実した学校施設を年次的に整備する。</p> <p>【定量的指標】 特別支援学校の建物の新増築(1校)</p>	H27	—	特別支援学校の建物の新増築校数	校数	1	-	繰
D3-1	<p>【目標】 老朽化等に伴い移転新築する医療機関等を整備し、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図るとともに、医療施設における患者の療養環境及び医療従事者の職場環境の改善並びに医療従事者の養育力の充実化を図る。</p> <p>【定量的指標】 民間医療機関の新築移転に伴う施設整備 1件 ・耐震化率 1%上昇(現況値(H26) 66%)</p>	H27	—	・民間医療機関の新築移転に伴う施設整備数	件	1	1	◎
				・耐震化率	%	1	1	

平成27年度沖繩振興公共投資交付金 成果目標達成状況(達成予定年度分)

(凡例)  
 達成...◎ 概ね達成...○ 一部達成...△  
 未達成...× 未...未 繰越...繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値	達成値 (実績値)	達成状況
D3-2	<p>【目標】 医療施設の耐震化又は補強等を行うことにより地震発生時において適切な医療提供体制の維持を図る。</p> <p>【定量的指標】 耐震化率 1%上昇(現況値(H26)66%)</p>	H27	—	耐震化率	%	1	1	◎
E-7	<p>【目標】 耕作放棄地等を解消するとともに、適切な森林整備事業を実施し、森林の持つ多面的機能の発揮を図る。</p> <p>【定量的指標】 侵入木により過密化した人工林等において、4.2haの植栽及び76.0haの保育を実施する。</p>	H27	—	侵入木により過密化した人工林等において、植栽及び保育面積	ha	4.2	4.2	◎
					ha	76.0	76.0	
G-32	<p>【目標】 石垣市における公園施設長寿命化計画に基づき、公園利用者のニーズに合わせた公園施設の適切な改築・更新、バリアフリー化改築等を行い、都市公園利用者の利便性・安全性の向上及び公園利用者促進を図る。</p> <p>【定量的指標】 ・石垣市におけるバリアフリー便所適合率:60%(H26末)→80%(H27末) ・石垣市中央運動公園の年間利用者数:283,500人(H22年度末)→300,000人(H27年度末)</p>	H27	—	・石垣市におけるバリアフリー便所適合率	%	80	80	◎
				・石垣市中央運動公園の年間利用者数	人	300,000	306,600	
G-34	<p>【目標】 地域住民の意見を踏まえ、安全性に配慮した親しみのある都市公園の計画的な整備を推進するとともに、競技スポーツの振興及び市民の生涯スポーツ・健康増進・レクリエーションの充実に資する都市公園の整備を目指す。</p> <p>【指標】 ・名護市における一人当たりの公園面積を18.56㎡/人(H23年度末)から19.58㎡/人(H27年度末)に増加する。</p> <p>【目標値】 名護市における1人当たりの公園面積:18.56㎡/人(H23年度末)⇒19.58㎡/人(H27年度末)</p>	H27	H26	名護市における1人当たりの公園面積	㎡/人	19.58	19.76	◎
G-42	<p>【目標】 都市公園として村民の健全な心身を育む場として供用しています。誰もが安全で安心して利用できるようバリアフリー対策を行い高齢化、障害者なども含めた暮らしやすいユニバーサル社会を目指します。</p> <p>【指標】 ユニバーサルデザインを取り入れた遊具設置公園数</p> <p>【目標値】 遊戯施設: 現況値(H26)0箇所 最終目標値(H27)1箇所</p>	H27	—	遊戯施設数	箇所	1	1	◎
H2-1	<p>【目標】 自然公園施設の利便性をあげることにより、多くの県民に優れた自然景観や自然環境を楽しんでもらう。</p> <p>【定量的指標】 本部ふるさと歩道整備(若地原～大堂)の遊歩道L=600mの整備</p>	H27	—	本部ふるさと歩道整備(若地原～大堂)の遊歩道L=600mの整備	m	600	600	◎

平成27年度沖縄振興公共投資交付金 成果目標達成状況(中間評価年度分)

(凡例)  
 達成・・・◎ 概ね達成・・・○ 一部達成・・・△  
 未達成・・・未 繰越・・・繰

番号	成果目標	達成予定年度	中間評価年度	成果指標	単位	目標値	達成値(実績値)	達成状況
E-1	<p>【目標】 農業生産額・農家所得の向上、多面的機能を活かした地域の活性化や定住の促進、環境に優しい循環型・省エネ型の農村地域を構築することを目標とする。</p> <p>【定量的指標】 農業生産基盤整備の強化(優良農地の確保) (H27) 約1,360ha (H28) 約1,700ha</p>	H28	H27	農業生産基盤整備の強化(優良農地の確保)	ha	1,360	1,476	◎
E-2	<p>【目標】 農業生産額・農家所得の向上、多面的機能を活かした地域の活性化や定住の促進、環境に優しい循環型・省エネ型の農村地域を構築することを目標とする。</p> <p>【定量的指標】 農地及び農業用施設の保全強化(優良農地の保全) (H27) 約1,280ha (H28) 約1,600ha</p>	H28	H27	農地及び農業用施設の保全強化(優良農地の保全)	ha	1,280	1,434	◎
E-3	<p>【目標】 多面的機能を活かした地域の活性化や定住の促進、環境に優しい循環型・省エネ型の農村地域を構築することを目標とする。</p> <p>【定量的指標】 生活環境基盤の強化(集落排水処理人口の向上) (H27) 約12,800人 (H28) 約16,000人</p>	H28	H27	生活環境基盤の強化(集落排水処理人口の向上)	人	12,800	15,174	◎
E-4	<p>【目標】 多面的機能を活かした地域の活性化や定住の促進、環境に優しい循環型・省エネ型の農村地域を構築することを目標とする。</p> <p>【定量的指標】 生活環境基盤の強化(定住化促進に向けた環境基盤整備) (H27) 約32集落 (H28) 約40集落</p>	H28	H27	生活環境基盤の強化(定住化促進に向けた環境基盤整備)	集落	32	38	◎
E-5	<p>【目標】 農業生産額・農家所得の向上、多面的機能を活かした地域の活性化や定住の促進、環境に優しい循環型・省エネ型の農村地域を構築することを目標とする。</p> <p>【定量的指標】 美ら海・農業の推進(赤土等流出防止対策) (H27) 約720ha (H28) 約900ha</p>	H28	H27	美ら海・農業の推進(赤土等流出防止対策)面積	ha	720	829	◎

平成27年度沖縄振興公共投資交付金 成果目標達成状況(平成26年度繰越分)

(凡例)  
 達成...◎ 概ね達成...○ 一部達成...△  
 未達成...未 繰越...繰

成果目標No	分野	成果目標 (平成25年度設定)	達成予定 年度	中間評価 年度	成果指標	単位	目標値	達成値 (実績値)	達成状況
75	都市公園	<p>【目標】 都市公園として村民の健全な心身を育む場として供用しています。誰もが安全で安心して利用できるようバリアフリー対策を行い高齢化、障害者なども含めた暮らしやすいユニバーサル社会を目指します。</p> <p>【指標】 公園施設のバリアフリー化の割合 ＝高齢者等への配慮をした都市公園数／本事業での整備都市公園総数</p> <p>【目標値】 園路広場： 現況値(H22) 0.0% 最終目標値(H26) 100.0%</p>	H26	—	公園施設のバリアフリー化の割合	%	100	100	◎
93	学校施設	特別支援学校の新增築（1校）	H26	—	特別支援学校の新增築校数	校	1	—	未